

目的：昨年に引き続き庶民階級における支持家具の導入について、都心に近い地域でアンケート調査・聞き取り調査を行い、その地域での導入過程を明らかにするとともに、砺波地方との比較考察を行なう。

方法：今回は富山市呉羽地区を対象とし、地区の3小学校の生徒とその家族300家族の協力を得てアンケート調査を行い、162家族から回収できたが、そのうち、欠損数が14あり、有効数は148である。そのうち、農家が73戸、農家以外は75戸である。農家のうち、伝統的農家63戸、それ以外の農家10戸である。なお、3人の古老から聞き取り調査も行なった。

結果：伝統的農家に最初に導入された支持家具は、足踏みミシンの椅子で、初出は大正時代である。次は学習机と椅子、昭和10年、第3は食事用のテーブルと椅子で昭和20年である。第4は接客用のテーブルと椅子で、昭和34年である。第5は鏡台の椅子であるその後、ベッド昭和55年、ソファ平成10年などである。

砺波地方と呉羽地区の伝統的農家の支持家具の導入過程を比較すると、呉羽地区では昭和21年から多種類の支持家具が導入され、昭和41年頃からは多くの家庭が支持家具を導入している。それに対して砺波地方では昭和26年から30年にかけて導入され、昭和36年から55年にかけて多く導入されている。両地方ともに最初に導入した支持家具が足踏みミシンの椅子であることは共通しているが呉羽地区が砺波地方よりも早い時期に多種類の支持家具を導入している。このことは呉羽地区が富山の市街地近くに位置していたためであろう。